

## 独立行政法人大学評価・学位授与機構評議員会（第10回）議事要旨

1. 日 時 平成19年6月21日（木） 13:30～15:30
  2. 場 所 学術総合センター 1112会議室
  3. 出席者 末松会長、小出副会長、石井、河野、後藤、関根、マルクス、四ツ柳の各評議員  
（相澤、秋元、安西、宇野、尾池、郷、小宮山、佐々木（正）、佐々木（雄）、柴崎、白井の各評議員は委任状提出）  
木村機構長、川口理事、山野井監事、橋本学位審査研究部長、木村評価研究部長、後藤管理部長、加藤評価事業部長、ほか機構関係者
  4. 前回の議事要旨について  
確定版として配付された。
  5. 議事
    - (1) 平成19年度年度計画について  
文部科学大臣へ届け出た平成19年度年度計画について報告が行われた。
    - (2) 国立大学教育研究評価委員会委員の選考について  
国立大学教育研究評価委員会委員1名の辞任に伴う後任委員の選考について審議が行われ、原案どおり承認された。
    - (3) 会長一任による各種委員会委員等の追加発令について  
大学機関別認証評価委員会委員1名および短期大学機関別認証評価委員会委員1名について会長一任により追加補充を行った旨の報告があった。また、欠員補充などの場合については、従来同様に評議員会会長に一任することとされた。
    - (4) 外部検証について  
平成19年度に実施する外部検証に係る委員会規則等について審議が行われ、各評議員の意見を反映することで承認された。  
(○：評議員 ●：事務局 以下同じ)
- 外部評価実施要項（案）の評定の区分は、第三者が見てわかりやすい記述にしてはどうか。  
A+で「さらに発展・充実させる必要がある」と言われると、まだ問題があるように聞こえ

る。

- これからも大いに発展させるべきと、独立行政法人評価委員会に見てもらいたいという趣旨でこのように表現した。
- 「引き続いて」という言葉はどうか。
- 少し工夫して、会長の意見を伺って改めたい。
- 委員の人選については、産業界、大学関係者、マスコミ関係者となっており、また、理系、文系にも配慮されておりよいと思う。

#### (5) 平成18事業年度業務実績報告書等について

平成18事業年度業務実績報告書等について審議が行われ、原案どおり承認された。また、今後修正がある場合は機構長に一任することとされた。

- 学位授与について、積み上げ型の基礎資格に「外国で14年以上の学校教育の課程を修了した者」とあるが、日本人を念頭に置いているのか。外国人への適用例はあるか。
- 基本的には日本人を対象としている。實際上、基礎資格の上に更に積み上げを行わなければいけないので、そういった意味で積み上げ型では外国人への適用例はないと思う。
- 積み上げ型ではないが、省庁大学校で留学生に学位を授与するケースが最近増えている。
- 関心を持っている外国人がいる。
- 現在のシステムでは日本人だけとなっている。
- 大学院入学の条件にも対応しているのか。
- 対応している。ちなみに、積み上げ型で学位を取得して外国の大学院に留学する者が大勢いる。
- 何か具体的に関連があるのか。
- 日本の大学院より外国の大学院のほうが門戸が広いのかもしれない。
- 日本の大学院レベルに入るのは簡単ではない。
- 広報活動について、大変努力しているように見受けられる。
- 他省の独立行政法人評価委員会に出席しているが、広報活動はBになってしまう傾向にある。いかに説明しても外部評価委員はBをつける。
- 広報活動が重要であることは広く認識されているが、評価しにくい性質である。
- 今後修正がある場合は機構長に一任することとする。

#### (6) 平成18事業年度財務諸表等について

平成18事業年度財務諸表等について審議が行われ、原案どおり承認された。

- 効率化係数は、毎年一律にかかるのか。
- 予算要求段階から、一般経費については3%、事業経費については1%の効率化係数がかかっており、それらを上回る削減を達成している。

○物件費の削減幅が大きいですが、どのような工夫をしているのか。

●一般競争入札、一橋大学との共同契約、アウトソーシングなどに取り組んでいる。

●管理部長は経理に強いので、努力させた結果である。

(7) 評価事業及び学位授与事業について

評価事業及び学位授与事業の実施状況について報告が行われた。

6. 次回の評議員会は、機構の事業の進捗状況をみて開催することとし、日程については、後日事務局より連絡することとされた。

以上